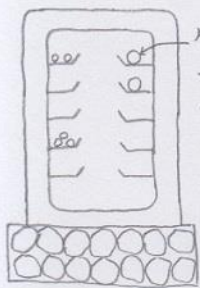


214. 暗きょ式・地中電線路の線路定数と故障原因

暗きょ式: 適当な深さに設けられたコンクリート造の暗きょ(洞道)の中に、支持金具などでケーブルを支持する方法



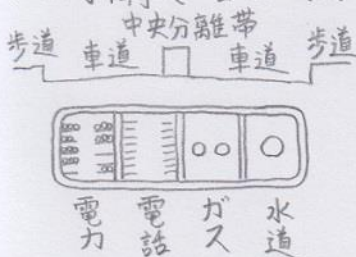
- ・発電所の構内などケーブル条数が特に多い箇所
- ・いくつかの企業の埋設物が入り組む場合
- ・トンネル式により施工する必要がある場合などに利用される

○換気設備が設けられている→熱放散が良い→許容電流が大きい→多条数布設に便利

○工事費が非常に高い ○工事期間が長い

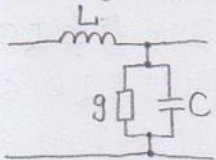
○ケーブルに耐燃措置を施すか、自動消火設備が必要

共同溝(暗きょ式に分類される)



同じ道路に電力、電話、ガス、上下水道などの地中工作物を施設する場合、共同の地下溝をついて施設する
企業ごとに繰り返し道路を掘削する事や、地下工作物が錯そうする事を避け、建設費の節減を図るもの

地中電線路の線路定数の特徴



架空送電線と比較して

- ・インダクタンス L は小さくなる
- ・静電容量 C はかなり大きくなる

地中配電線路の故障原因の内、最も多いのは水道やガス工事などの際に発生する故意・過失によるケーブルの外傷

ケーブルの事故は、管路式であればマンホール間のケーブルを引き替える必要があり、直接埋設式であれば掘削部分をできるだけ小さくするためにも、故障点の位置はできるだけ正確に掴まなければならない

→地中線は架空線と違い、ケーブルの故障点を巡視などの目視によって探し出す事はあまり期待できない



次回は故障点の探査法をやるといふ布石

最後の意味深い長な締め方は何なの？

暗きょ式と線路定数は分かったとして...

